

## 大阪あゆみ福祉会 2020年度事業報告

★今年度は、新型コロナウイルス感染症のため4月から緊急事態宣言が発令されてのスタートになりました。大阪府下では公立の幼稚園・小中高等学校が休校する中、保育園については休園にはならないという開園要請のもと、子どものいる職員は交代で休みを取って家庭保育をせねばならない状況もあり、保育体制の確保と感染拡大防止のため、育児休業者をはじめ、在宅勤務の方々に家庭保育のご協力をお願いしました。日ごとに協力家庭は増え、少ない時には園児約30人まで減りました。緊急事態宣言解除に至るまで園児・職員はなかなか揃わず、実際の保育スタートは6月からとなりました。

保育内容も今までのようにはいかず、毎日の消毒・3密回避・換気を合言葉に日常保育や行事に向けて保護者にも協力依頼をする中、何度も職員間で話し合い、調整を行いながら子ども達に無理のないよう取り組んできました。年間行事に関しては、春行事の中止が多くなりましたが、他園のいろんな情報を参考に園として「コロナだから出来ない」という考えよりも「どうすればできるのか」を念頭に、運動会や発表会、合宿など工夫と配慮の元進めてきました。この一年、両園とも職員や園児からコロナ感染者を出すことなく無事に過ごすことが出来たのは何よりでした。

コロナ禍での影響と育児休業取得が伸びた事も要因で大阪市内の保育所の入園申し込み者が昨年度と比べかなり減っている現状がありました。特に0歳児の定員割れがどの保育園でも問題視されている中、新入園児獲得に向けて、新たなホームページ作成で保育園の様子やこだわりの保育など幅広く閲覧してもらえようリニューアルをし、2021年の夏頃の完成を目途に進め、次年度の新入園児申し込み時期には多くの方に新ホームページを閲覧してもらい、定員割れ回避に繋がりたいと思っています。

大阪市としては業務委託をしていたパソナを2020年から切り、市の職員で保育園事務業務をしています。パソコン業務での入力間違いやエラーが多く、やり直しや差し替えが増えて園負担が幾度もあり、補助金は年度内に振り込まれないなどの状況が続いています。大阪市の長年にわたっての人員削減の結果、保育事務業務をはじめ保健所の保健師さんなど様々な業務の滞りは否めず、苦慮しています。

園の業務としては、昨年度末より保護者からの集金を銀行口座振替に変更して、現金のやり取りが無くなり事務作業はかなり捗りました。また、大阪市の施設監査で毎年指摘をされていた園の特別活動費徴収の取り扱いで、一人1,000円の集金額を見直すことになり、内容精査と合わせて積算した結果、幼児一人500円(3~5歳児)・乳児一人200円(0~2歳児)としました。

コロナ禍で3密を避け工夫しながら、懇談会など短縮して行いましたが、緊急事態宣言下で中止となった方が多い一年でした。父母からは「短時間でいいからリモート会議で懇談会を行ってほしい」旨の意見も出始めています。大阪市や大保連の研修はリモート研修も多く、今後そのような対応も必要になってくるのかと念頭に入れながら、他園の情報も収集しているところで、そうなれば環境整備なども含めて見直していく必要性も感じているところです。

### 2020年度事業報告資料

別紙1 2020年度法人活動記録

別紙2 2020年度法人・施設体制担当者名簿

別紙3 2020年度三者懇談会報告(各園別)

別紙4 労働組合との話し合い報告

別紙 各園の報告 ①~⑦

①年間行事結果表 ②各月初日児童在籍数 ③児童出欠率表 ④病気・ケガ報告表 ⑤職員休暇取得状況表 ⑥職員研修参加状況表 ⑦職員との個別面談まとめ(自己評価・アンケートより)